

化学科3年による工場見学を2月18日に行いましたので、この場を借りて報告させていただきます。今回の参加者は学生33人と藤本先生、角山先生でした。

午前には2011年に竣工した武田薬品工業株式会社湘南研究所内の施設環境を見学しました。約1,300人が働く当研究所では研究に専念できる施設を整えており、内部にはメイン通路であるブロードウェイに、日当たりの良いノマドや会議室を設置していました。同一棟の中間階には面談室等を設置して部門間のコミュニケーションをとりやすくしているそうです。周りは木々で囲まれており、イノベーションを生む機能的なレイアウトとして湘南研究所は竣工しました。12月には京都大学と共同でiPS細胞の医療応用(T-CiRA)に取り組み、がんや心不全、糖尿病、神経変性疾患、難治性筋疾患など6つの疾患領域で臨床応用を目指し、産学連携できる施設としても新薬の中核を担っています。またロボットを使いハイスループットスクリーニングを採用することにより、迅速かつ低コストで薬理の発見を行っていました。イノベーションを育む施設、最先端の機器と多様性のある環境である当研究所は創薬の拠点として優位性を発揮していると伺いました。日本の国内製薬会社トップである武田薬品が大型医薬品の特許切れがあり、新薬の開発が重視される中、競争力を高めるため大規模な湘南研究所を設立する必要があったことが見学を通して窺えました。

午後は、(株)三菱化学科学技術センターに伺いました。はじめに、慶應義塾大学応用化学科のOBである二人の研究者の方から、キャリア、会社での日々の生活、私たち学生へのアドバイスなどのお話を伺いました。その後、「分子ふるい」や「触媒」として人工光合成や石油化学原料の新製法への活用を見込まれるゼオライト粒子の製造工程や、有機合成の実験を行う実験室、また、環境・安全への取り組みとして、排水のリサイクルシステムを見学させていただきました。また三菱化学の企業理念である、人や環境にとっての「KAITEKI」を実現するための新製品として、白色LED、世界最大級のパネルサイズを実現した有機EL、軽量でフレキシブルな太陽電池モジュール、生分解性ポリマーなど最先端の製品の紹介をいただき、同社の研究開発の幅広さに驚くと同時に、化学で人々の生活をより良くし、環境問題へ取り組むことに対し感銘を受けました。最後には役員フェローの方に10年以上にもわたるプロジェクトを成功させる秘訣、若いうちに研究者としての基礎を作り、自分の研究者としての長所や短所を見分けることの大切さ、企業と大学の研究の相違点や醍醐味など、とても有意義なお話をさせていただきました。化学が企業の製品としてどのように応用されていくかを垣間見ることで、これから始まる研究室での研究や、将来の仕事を考えるにあたり、とても刺激的で意味深い工場見学になりました。

最後に工場見学を通して、お忙しいながらも時間を割いてくださり、研究の様子やその体験談など貴重な経験ができましたことを企業関係者の方々に心より御礼申し上げます。